

令和 6 年 4 月 9 日現在

機関番号：32601
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：19K00111
研究課題名（和文）『百科全書』に見る進歩と反動：公認学説の地位をめぐる新旧諸学派の科学・哲学論争
研究課題名（英文）Progress and Reaction in the Encyclopédie : scientific and philosophical controversies over the established doctrines
研究代表者
井田 尚 (Ida, Hisashi)
青山学院大学・文学部・教授
研究者番号：10339517
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、『百科全書』の科学・哲学項目において、十七世紀末から十八世紀前半にかけて公認学説の地位を争ったアリストテレス主義、デカルト主義、ニュートン主義など歴代の有力な学派の競合関係の歴史が、百科全書派のイデオロギーによっていかに「科学と哲学の進歩の歴史」として書き換えられたかを、検閲対策の合法的言説としてのアリストテレス主義、啓蒙主義の引き立て役としての「新哲学」、デカルト主義、『百科全書』におけるディドロの無署名項目の認定基準の余白、『百科全書』に頻出する証明・演示の概念と『百科全書』の啓蒙的な科学観といった主題を通じ、実証的に明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『百科全書』がアリストテレス主義、デカルト主義、ニュートン主義といった既存の哲学体系を啓蒙主義的・世俗主義的な科学観によって、いかに世俗化が進行する近代における学問と科学の進歩の歴史に取り込み、百科全書派の進歩主義的な学芸観の正当性を同時代および後世の読者・公論にアピールしようとしたかを実証的に論じた本研究は、一見客観的に見える科学史・哲学史のイデオロギー的性格を浮き彫りにするとともに、我々現代人がいかに啓蒙主義をルーツとする近代の進歩主義的な科学観・哲学観の影響を受けているかを改めて教えてくれる点で、学術的・社会的意義が大きい。

研究成果の概要（英文）：In the present research, we tried to demonstrate by positive facts and documents how the history of the relationships among influential schools of thought, such as Aristotelianism, Cartesianism, and Newtonianism, which competed for the status of official doctrine from the late 17th to the early 18th century, was rewritten in the scientific and philosophical articles of the "Encyclopedie" as the "history of the progress of science and philosophy" by the ideology of the Encyclopedistes.

This was achieved through various themes, such as Aristotelianism as a legitimate discourse under the censorship, Cartesianism as a promoter of the "new philosophy" exploited as an auxiliary of Enlightenment, the criteria for certifying Diderot's unsigned articles in the "Encyclopedie," the concept of demonstration recurring in the "Encyclopedie" and its role in the Enlightenment view of science.

研究分野：18世紀フランス思想、啓蒙思想

キーワード：百科全書 啓蒙思想 科学史 哲学史 進歩主義 アリストテレス主義 デカルト主義 ニュートン主義

1. 研究開始当初の背景

18世紀フランスのデイドロ、ダランベールら百科全書派の思想家・科学者がこぞって自然学を真の学問のモデルとした背景には、中世にキリスト教神学を支えるスコラ学に取り込まれたアリストテレス哲学、厳密には、アリストテレスの門徒・後継者が形成した逍遥学派哲学が事実の観察を疎かにし、抽象的な語彙や概念の定義・分類に終始した、との英国経験論の祖フランシス・ベーコンの指摘、および科学革命の進展を受けた科学アカデミーにおける実験自然学の隆盛などを背景とした、啓蒙主義的な形而上学批判があった。

ところが、カトリック教会とソルボンヌ大学神学部が公刊著作の宗教検閲の役割を担い、カトリック・キリスト教の正統の教義から外れる学説や哲学的見解が異端としてしばしば断罪されたフランスでは、イエズス会のコレージュや大学の旧態依然とした教育カリキュラムの一環としてアリストテレスの論理学、自然学、形而上学などが、キリスト教の教義に照らして「適法」な公認哲学として命脈を保ち、学問の進歩の障壁となっていた。そのため、18世紀に入ってデカルト哲学がようやく「新哲学」として受け入れられたのも束の間、世紀前半には英国からロックの経験論やニュートンの物理学などが陸続ともたらされ、混沌とした競合状態の中で公認学説の世代交替が進んだのが実情である。18世紀の前半に進行したこうした新旧理論の世代交替が『百科全書』の科学的・哲学的言説にもたらした具体的な影響は、18世紀研究、『百科全書』研究のいずれにおいても、十分に解明されたとは言えない状況であった。

科学史、哲学史を中心に、十七世紀から十八世紀にかけてアリストテレス主義、デカルト主義、ニュートン主義がそれぞれ辿った命運を別個に論じた研究は存在するが、これらの新旧学派の論争が『百科全書』の中でいかに啓蒙主義的な言説に回収され歴史化されたかという歴史叙述の視点から総合的に論じ、しかも新旧学派をめぐる『百科全書』の記述が科学項目と哲学項目とで見せる差異にも着目しながら、啓蒙期の科学・哲学の歴史を「進歩」と「反動」のせめぎ合いとして動的に捉えた研究は、国内外を問わず前例に乏しいので、以上の狙いに基づく本研究は、『百科全書』の実証研究のみならず、啓蒙期の科学および哲学の歴史に関する学際的な研究としても、画期的な貢献が期待された。

2. 研究の目的

本研究の目的は、デイドロ、ダランベールら哲学者・科学者が執筆した『百科全書』の科学・哲学項目において、アリストテレス主義、デカルト主義、ニュートン主義など複数の競合学説の多元的・複層的な対抗関係の歴史が、百科全書派のイデオロギーによっていかに啓蒙主義的な「進歩と反動の物語」に取り込まれ、理性を旗印とした「科学と哲学の進歩の歴史」として書き換えられたかを、『パリ王立科学アカデミー年誌・論集』をはじめとする学術雑誌など同時代資料の分析を交えて実証的に解明する点にある。

3. 研究の方法

本研究は、アリストテレス主義、デカルト主義、ニュートン主義を代表とする新旧理論が、科学アカデミーや大学といった公的な学術制度の内外に属する多様な学者集団・社会集団によって、「進歩」と「反動」をめぐる学問的なイデオロギー闘争にいかに関与されたかを、『百科全書』の科学・哲学項目の歴史叙述および百科全書派の著作の分析を通じて実証的・具体的に明らかにすることを目指すもので、研究の方法としては、思想史・科学史の概念・イデオロギー分析の手法と、テキストの精緻な読解を目指す実証的な文献学的手法とを総合した18世紀研究である。

4. 研究成果

研究期間の全体を通じ、百科全書の書物としての成り立ちと全貌を思想史的手法と文献学的手法を用いて改めて明らかにするとともに、『百科全書』の科学・哲学項目におけるアリストテレス主義、デカルト主義、デイドロによる無署名項目の認定問題、証明の概念、デイドロの唯物論思想などのテーマをめぐる実証的な研究を通じ、当初の目的通り、新旧の科学理論・哲学説が、デイドロをはじめとする百科全書派のイデオロギー的な思惑によって、啓蒙思想の進歩主義的な側面を強調するために援用・利用された事実を具体的に論じ、明らかにすることができた。また、その成果として、以下の著書・単著1点、論文・単著6点の業績を挙げることができた。

【著書・単著】

- 1) 『百科全書:世界を書き換えた百科事典』、慶應義塾大学出版会、2019年8月、232頁。

【論文・単著】

1) 『『百科全書』とアリストテレス主義: 「合法的言説」としての古代哲学』、青山学院大学文学部『紀要』(査読なし)、青山学院大学、61号、2020年3月、pp.61-81.

2) 『『百科全書』項目「デカルト主義」のデカルト哲学批判と啓蒙のイデオロギー』、青山学院大学文学部『紀要』(査読なし)、青山学院大学、62号、pp. 113-132、2021年3月.

3) 「無署名項目の書き手の特定は可能か? 『百科全書』におけるディドロの項目の認定基準とその余白』、『青山フランス文学論集』(査読なし)、青山学院大学フランス文学会、30号、2021年12月、pp.5-32.

4) 『『百科全書』項目「デカルト主義」と十八世紀前半の科学啓蒙書が物語る、ニュートン派の制覇に対するデカルト派の根強い抵抗』、青山学院大学文学部『紀要』(査読なし)、63号、pp. 147-167、2022年3月.

5) 『『百科全書』における証明・演示(demonstration)の概念と科学の哲学的啓蒙』、青山学院大学文学部『紀要』(査読なし)、青山学院大学文学部、64号、pp. 135-155、2023年3月.

6) 「ディドロの唯物論的世界観と循環する思想 - サロンの談話から哲学小説まで』、『青山フランス文学論集』(査読なし)、青山学院大学フランス文学会、32号、2023年12月、pp. 30-49.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 井田 尚	4. 巻 64
2. 論文標題 『百科全書』における証明・演示（DEMONSTRATION）の概念と科学の哲学的啓蒙	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 青山学院大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 135-155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34321/22689	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井田 尚	4. 巻 63
2. 論文標題 『百科全書』項目「デカルト主義」と十八世紀前半の科学啓蒙書が物語る、ニュートン派の制覇に対するデカルト派の根強い抵抗	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 青山学院大学文学部『紀要』	6. 最初と最後の頁 147-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34321/22150	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井田尚	4. 巻 62
2. 論文標題 『百科全書』項目「デカルト主義」のデカルト哲学批判と啓蒙のイデオロギー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 青山学院大学文学部『紀要』	6. 最初と最後の頁 113-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34321/21760	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井田尚	4. 巻 61号
2. 論文標題 『百科全書』とアリストテレス主義：「合法的言説」としての古代哲学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 青山学院大学文学部『紀要』	6. 最初と最後の頁 119-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井田尚	4. 巻 30
2. 論文標題 無署名項目の書き手の特定は可能か? 『百科全書』におけるディドロの項目の認定基準とその余白	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『青山フランス文学論集』	6. 最初と最後の頁 5-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井田尚	4. 巻 32
2. 論文標題 ディドロの唯物論的世界観と循環する思想 — サロンの談話から哲学小説まで	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『青山フランス文学論集』	6. 最初と最後の頁 30-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 井田 尚	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 232
3. 書名 百科全書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>AURORA-IR 青山学院大学・女子短期大学 学術リポジトリ https://www.agulin.aoyama.ac.jp/search/aurorair</p> <p>青山学院大学 研究者情報 https://raweb1.jm.aoyama.ac.jp/aguhp/KgApp?kyoinId=yimingboiggy</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------